



# ふくちゃん新聞

2017.4.1

はるごう  
〔春号〕

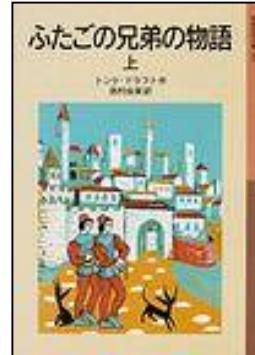
No.148-② (2年生~)

発行：生駒市図書館 生駒市辻町238番地 ☎0743-75-5000 <http://lib.city.ikoma.lg.jp/>

## 『ふたごの兄弟の物語 上・下』

トンケ・ドラフト／作

西村 由美／訳 [岩波書店]



バビナ国<sup>こく</sup>の首都バイヌ<sup>しゆと</sup>に住む貧<sup>す</sup>しい靴屋<sup>くつや</sup>夫婦<sup>ふうふ</sup>に、ふたごの男<sup>おとこ</sup>の子<sup>こ</sup>が生まれました。名前<sup>なまえ</sup>はラウレンゾーとジャコモ。見た目<sup>みめ</sup>がそっくりな兄弟<sup>きょうだい</sup>を見分けることができるのは両親<sup>りょうしん</sup>だけでした。もうすぐ7歳<sup>さい</sup>になるある日のこと、二人はお父さんから学校<sup>がっこう</sup>に行くように言われました。いつも自由<sup>じゆう</sup>に楽しく過ご<sup>ひ</sup>していたので、学校<sup>がっこう</sup>に行きたくなかった二人は、こっそり話し<sup>はな</sup>合い、「ラウコモ」という名前<sup>なまえ</sup>で代わりばんこに学校<sup>がっこう</sup>へ行く計画<sup>けいかく</sup>を立てました。ラウレンゾーが学校<sup>がっこう</sup>へ行く日は、ジャコモは外<sup>そと</sup>で遊ぶ<sup>ふしぎ</sup>のです。ところが、ラウコモのふるまいが日<sup>はの</sup>によって違うことを不思議<sup>せんせい</sup>に思った先生<sup>おおがえ</sup>が、ある日、大声<sup>よ</sup>で「ラウレンゾー」と呼ぶと、ジャコモは思わず顔<sup>おも</sup>をあげてしましました。ふたごの兄弟<sup>きょうだい</sup>は、どちらも相棒<sup>あいぼう</sup>の名前<sup>はんのう</sup>に反応<sup>うそ</sup>するのです。先生<sup>おおがえ</sup>に嘘<sup>うそ</sup>を見やぶられたと思ったジャコモは、ラウレンゾーに学校<sup>がっこう</sup>でのできごとを話し<sup>はな</sup>し、二人はいっしょに学校<sup>がっこう</sup>へ行くことに決めました。二人いっしょのほう<sup>たの</sup>がずっと楽しいからです。

二人は何の心配<sup>なん</sup>もない少年時代<sup>しんばい</sup>を過ごしましたが、15歳<sup>す</sup>になったとき、両親<sup>りょうしん</sup>が伝染病<sup>でんせんびょう</sup>にかかり亡くなってしまいました。靴屋<sup>くつや</sup>の店<sup>みせ</sup>を売り、貧乏<sup>う</sup>になった二人は、バイヌ<sup>はな</sup>を離れる<sup>たび</sup>ことにしました。旅<sup>と</sup>のとちゅうで年老<sup>としお</sup>いた行商人<sup>ぎょうしょうにん</sup>に出会い、二人はそれぞれが自分の道<sup>じぶん</sup>を進む<sup>みち</sup>ようにと忠告<sup>すす</sup>を受けました。職人<sup>ちゆうじ</sup>になりたいラウレンゾーと旅<sup>たび</sup>や冒險<sup>ぼうけん</sup>をしたいジャコモは、一年後に再会<sup>いちねんご</sup>することを約束<sup>さいかい</sup>して、べつべつの道<sup>やくそく</sup>を進んでいきました。

# ケンカもするけどやっぱり仲よし

## ぼくとわたしのきょうだいを紹介します



### 『きかんぼのちいちゃいいもうと』

ドロシー・エドワーズ／著

渡辺茂男／やく 堀内誠一／え 福音館書店



きかんぼって「いうことをきかないこ」ってことですよ。この本では、ねえさんがいもうとのはなしをするのですが、このいもうとがとてもきかんぼなのです。どんなふうかって？それは読んでみてください。きかんぼもすてたもんじゃありませんよ。おかあさんがいもうとに「あなたみたいのも、わるくはないわね」っていったのがよくわかるはずです。



### 『子どものための世界文学の森18 デブの国ノッポの国』

アンドレ・モロア／著 辻昶／訳 集英社

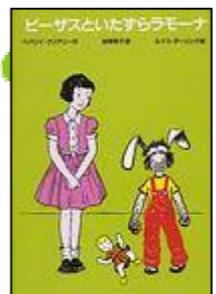
ふとっちょの兄さんとやせっぽちの弟はだいのなかよし。ある日、森をさんぽしていて、地下の国の入り口を見つけました。エスカレーターで下りてみると、のんびりな人が住むデブ国とせっかちな人が住むノッポ国に分かれています。ふたりは、はなればなれにされてしまいます。



### 『ビーザスといたずらラモーナ』

ペバリイ・クリアリー／著 松岡享子／訳

ルイス・ダーリング／絵 学研教育出版



ビーザスの最大のなやみは、4歳のいもうとラモーナです。ある日、スチームシャベルの本ばかり読んでやることにうんざりしたビーザスは、ラモーナを図書館へつれていくことにしました。ところが、ラモーナはまたもやスチームシャベルの本が気に入り、かりた本に自分のしるしを書いてしまったのです。



### 『鉄道きょうだい』

E. ネズビット／著

中村妙子／訳 教文館



ボビー、ピーター、フィリスの三人きょうだいは、幸せな毎日を過ごしていました。しかし、お父さんがどこかへ連れて行かれ、生活が一変します。お母さんと田舎に引っ越ししたきょうだいの支えとなったのは、鉄道でした。ある日、お母さんが病気になり、三人はいつも車窓から手をふってくれる老紳士に手紙を渡すことにしました。



ほかにもこんなきょうだいの本があるよ！

#### 『若草物語』 (福音館書店)

『ふたりのロッテ』 (岩波書店)

『おにいちゃんといっしょ』 (小峰書店)

『黒ネコジェニーのおはなし3

ジェニーときょうだい』 (福音館書店)

『クローディアの秘密』 (岩波書店)

『やかまし村の子どもたち』 (岩波書店)



ここで紹介した本は、  
4月8日～7月6日の間  
ふくちゃん広場にあります。



モファットきょうだい  
のシリーズ。ほかの本  
もよんでみてね。



# 4・5月のおはなし会

(しょうがく2~6ねんせい)

## としょかん

4/ 2(日)「うちの中のウシ」ほか

5/ 7(日)「チム・ラビットのあまがさ」ほか

じかん:3じ~3じ30分

4/16(日)「おうさまとオンドリ」ほか

5/21(日)「犬と笛」ほか

## きたぶんかん

4/ 8(土)「はなたれ小僧さま」ほか

5/13(土)「世界でいちばんやかましい音」ほか

じかん:3じ~3じ30分

4/22(土)「花さかじい」ほか

5/27(土)「足折れつばめ」ほか

## みなみぶんかん

4/22(土)「ひとつさやから出た五つのエンドウ豆」ほか

5/27(土)「きつねとおおかみ」ほか

じかん:3じ~3じ30分

## いこまえきまえ としょしつ

4/22(土)「犬と笛」ほか

5/27(土)「こぶとりじい」ほか

じかん:3じ~3じ30分

## しかのだい ふれあいほーる としょしつ

4/ 8(土)「ばんねずみのヤカちゃん」ほか

5/13(土)「まめたろう」ほか

じかん:3じ~3じ30分

4/22(土)「かしこいモリー」ほか

5/27(土)「カボチャの種」ほか

こども読書の日記念行事  
2017



★ずらへりならべて、新 しいえほん展覧会♪

本 4/1(土)~12(水) 4/14(金)~16(日)

南 4/19(水)~23(日) 4/26(水)~30(日)

駅 5/3(祝)~7(日)

★きみも、これで図書館博士だ！子ども一日図書館員

\*要申込 [対象:市内に住む小学5年生~中学生]

北 4/22(土) 本 4/23(日)

★生駒駅前図書室でふくろうを描こう ホー！ホー！ホー！

駅 4/23(日) ①10:00~12:00 ②14:00~16:00

★/♪・ママいつしょ！わらべうたと絵本の会

北 4/23(日) 10:30~11:15

★/♪・ママcome come絵本の会

南 4/23(日) 10:30~11:15

★みっきランド(セイセイビル内)で読み聞かせ♪

北 4/26(水) 10:45~11:30

★春の鹿ノ台図書室まつり

鹿 4/30(日) 10:00~12:00

本 …生駒市図書館(本館)、北 …北分館、

南 …南分館、駅 …生駒駅前図書室、

鹿 …鹿ノ台図書室、北 …みっきランド